



令和元年 9月 2日

佛教大学附属幼稚園

## 子ども達には「あたりまえ」はない

園長 田中典彦

とても暑かった今年の夏でしたが、皆様にはいかがお過ごしでしたか。子どもさんと共に楽しくされたことだと思います。それぞれの命が躍動的なこの時期は「命」の不思議を感じ取ってもらうのに一番いい時だと思います。

私には、3歳の孫がいます。ちょうど本園のひよこ組の園児に当たります。二人のお姉さんの影響もあってのことか、おしゃべりでやんちゃです。いろんなもの事に興味もっています。家族がみんな好きなので、たくさんのお木や草花や虫たちを育てているのですが、どれにも興味津々。とくに今年はカブトムシやクワガタに執心でした。見始めたら何時間でも見ていました。

不思議なんでしょうね。そして大人に聞くのです、「なんでー？」って。名前はすぐに覚えてくれどわからないことがいっぱいあるのでしょう。「なんでこの形？」。幼虫の時からずっと観察してきた彼には、その変化の意味がわからないのです。大人の私達には「変態」という知識があるから、当たり前だと思っているのですが、「なぜ」と聞かれると答えるのに窮してしまいます。お母さん、お父さんから戴いてきた命の不思議な仕組みがあるからだと答えておいたのですが、やさしくは説明できませんでした。子ども達には「あたりまえ」はありません。

園の行事となっている川遊びの時もそうでした。子ども達は水の中のたくさん生き物と触れあって驚喜していました。すぐに私に質問が来ました。「オタマジャクシはカエルになるんでしょ？なんで名前が違うの？ずーとオタマジャクシかカエルといえればいいのに」。こんな鋭い質問に答えられますか？見える世界で起こる状態の変化は知識として持つためにそれぞれの段階に分けて名前を付けるのが人間の知の働きなのです。だから分別知なのです。しかし事実はすべては移り変わっているだけなのです。すべてのものが変化してその時々状態として現われているのだと捉えるのが、仏教で教えている縁起ということなのです。

実は人間にもこのような変化があるのですが、私達の見える世界でのことではないのです。それはお母さんのおなかの中で起こっているのです。だから自分も同じような過程を通ってきたことは知ってはいないのです。現代では、医療機器などによって見るができるようになってから、お母さんは知っておられるはずですが、いつか機会を得た時には、この命の不思議と尊さを教えてあげてください。

このようにして命がそれぞれいろんな形で現われ、生きるという状態を保っているのが命あるものの世界であるといえるでしょう。みんな貴重な、大事な命を生きているのであるから、互いに尊重し合って生きることが大切なのだと仏は教えています。

とはいうものの、私達は、この体をもって生きるためには他のものの命をいただかなければならない身の上です。じつに多くの命の犠牲の上に、生きるということが成り立っている事実をも伝えておくことが必要です。あたりまえだと思ひこんでしまう前に。

川遊びでは、楽しませてくれた、いろんなことを教えてくれたカニやカエル達に感謝しながら水に返してきました。広沢の池で釣り上げたザリガニももとに放生<sup>ほうじょう</sup>させていただきました。

「ミズだって、オケラだって、アメンボだって、みんなみんな、生きているんだ、友達なんだ」。

当園では、命の大切さをしっかりと感じ取ってもらえる心をお育てすることを重視しています。

